

# 令和 4年度 園評価書

園番号 19 園名 下川原こども園

## I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心身ともに健康で心豊かな子	思いを出し合い夢中になって遊びこむ	子どもが、自分の思いを表現しながら、友達とのかかわりを楽しんでいる	・遊びや生活の中で「こうしてみよう」「こうしたらどう?」と伝え合いながら遊びを展開する子どもの姿が多く見られた ・0歳児でも、自分より小さい子に玩具を差し出したり、友だちの真似をして”一緒”と顔を見合わせ楽しんでいる	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>散歩や公園で子ども達が遊んでいる姿や声がきかれるようになって嬉しい。新型コロナウイルス感染症との共存してきている</li> <li>みかん狩りが近所でできることにびっくりした。のびのびとたくさん遊ばせてもらっている</li> <li>園庭会議をやっていることが強みになっていることが、この項目に現れている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、振り返りを大切に子どもの思いを丁寧に受け止め関わっていく</li> <li>子どもが「おもしろい」「もっとやりたい」など感じている時を見逃さず、繰り返し遊べるように環境構成を行う</li> <li>子ども達の思いや遊びの姿から、スピード感を持って環境の見直し、改善をしていく</li> <li>自由に見立てられる素材道具がないか、アイデアを出し合っていく</li> <li>子どもが「やっつけていい?」と聞かず、自ら進んで始められるような環境と雰囲気作りを行っていく</li> </ul>
		子どもが、遊びの中で繰り返したり、試したりし面白さや楽しさを感じている	・幼児組では、様々な素材や廃材を使い、工夫しながら自由を作ったり、試したりしながら遊びを楽しんでいた ・夏は水や色水、泡遊び、秋は木の実などの自然物、冬は氷などに触れ自然に親しみその面白さを感じながら遊ぶ姿が見られた	B	A		
		子どもが、友だちや保育者と一緒に身体を動かす楽しさを感じている	・発達に合わせた運動遊びを保育に取り入れながら、戸外遊びを楽しんだり、室内でもサーキット遊びやリズム運動を楽しむ姿が多く見られた。公園も近く、川原地区の自然に触れながら散歩の機会も多く持つことが出来た	A	A		

## II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	園は、学年目標に向けた保育を進め、子ども理解を深めている	グラウンドデザインや保育計画を基に、月案・週案を立て、保育者間で話し合いながら子ども理解を深め保育している。また、個々に合わせた保育内容や関りの中で、子どもの発達や経験等の差を保育者同士情報を共有している	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの体調をしっかりとみてくれたり、丁寧に対応してくれるため、安心する</li> <li>家庭によって環境や生活リズムが違うため難しいと思うが、たくさん遊ぶ時間を確保したり保護者に伝えてほしい</li> <li>子どもにあった環境を考え対応している。保育参観をした時、ひとりポツンとしている子がいなかったのは、先生たちが子どもたちのことを見てくれているからだと感じた</li> <li>毎月避難訓練をやるのは大変だと思うが、大切なことなので続けてほしい</li> <li>消毒をしっかりとやってくれているのが分かった</li> <li>特別支援は、手厚く保育してくれている。支援が必要なお子さんを入れたいが、その子の安全を守るため、また職員を守るために無理な時もある</li> <li>以前は分掌でなく係で動いていたが、分掌の動きや流れに慣れてきたことがわかった</li> <li>情報共有はしっかりと行っていると思う</li> <li>研修は職員の努力が見えた。子どもの姿から、職員の向上心も伺え、評価・課題を上げ、次に向けて動こうとしているのがわかった</li> <li>学校はユニバーサルデザインで授業や生活を行っている。視覚からわかるようにし環境を整えている</li> <li>片づけは永遠の課題。園だけではなく保護者にも伝え家庭でもやってもらえるようにしていったほうがいい</li> <li>9・10は昨年より今やれることをやっているが、発信力が足りなかったのでは?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育計画や月案を基に、子ども理解を深め振り返りを行っていく</li> <li>全職員で周知できるように、職員会議やクラス会議など行っていく</li> <li>職員間で連携していき、個々の情報を共有し子どもが安心して過ごせるようにしていく</li> <li>子どもが主体的に遊んでいた姿や環境を探ったり、子どもの今の姿から、次の環境を考えたり整備していく</li> <li>様々なケースを想定し、職員や子どもの動きのイメージが広がるようにしていく</li> <li>実施後の反省を職員間で共有していく</li> <li>ヒヤリハットを必ず書くようにする</li> <li>5月からコロナウイルスは5類相当になっていくが、手洗いうがいなどできることは引き続き行っていく</li> <li>パンダの会・ピーチサロンへ加配担当以外の職員などにも参加してもらい、共有できるようにしていく</li> <li>加配児以外の気になる子についても、手立てなど話し合い共有していく</li> <li>引き続き分掌担当が中心になり企画運営を行っていく。また、行事ごとなどで反省・課題を出し合い、職員間で共有していく</li> <li>研修主任と研修部を中心に公開保育の事前・事後研修で出た意見は会議などで職員間で共有していく。また、公開保育以外のタイミングでも自分の保育を振り返る機会を作っていく</li> <li>子どもの遊ぶ姿からどのように環境を整えていくのか考える。また、皆で使う場所は定期的に職員で片づけた時には子ども達と片づけるようにしていきたい</li> <li>保護者が見やすい・読みやすいボード・連絡ノート・おたより・ドキュメンテーションを考えていく。また保護者への伝達は必ず行い、職員間でも周知していく</li> <li>社会情勢が少しずつ変化していくときは、その時にできること、やれることを行っていくようにしていく</li> <li>小学校と連携を取り、行事などに参加できるようにしていく</li> <li>おしゃべりサロンやS型デイサービスは、できることを行っていく。地域には園だよりの配布を行っていき園を知ってもらえるようにする</li> </ul>
		(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園は、一人一人の生活状況や在園時間の違いに配慮し、丁寧に寄りながら子どもたちが安心して過ごせるようにしている	B	A		
		(3)環境を通して行う教育及び保育	園は、子どもが工夫や発想を楽しみ、主体的に遊ぶことができる環境を用意している	B	A		
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	園は、様々な災害を想定し、計画的に訓練を行う中で、全職員が状況に応じた行動や対策を行っている	様々な災害を想定した訓練を、毎月定期的実施し、振り返りから良かったこと、改善したほうが良いと思われることなど、意見を出し合い話し合っている。又職員にも抜き打ちで訓練を行うことにより、状況に合わせた判断を保育者自身が考え行うことも出来た	A	A		
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	園は、うがい・手洗いの励行・玩具等の消毒などを実践し、感染症予防の対応・対策をしている	使用した玩具やドア、壁等の共有スペースの消毒をこまめに行っている。また、体温・体調チェックも日々行った。手洗い、うがいの手順のポスターを掲示して子どもたちにもわかりやすく知らせている。乳児も保育者がそばについて介助し手洗い等丁寧にしている	A	A		
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	園は、一人一人に合ったサポートプランを作成し、担当者会議で話し合った内容を園全体で共有した関りをしている	3か月に一度保護者と面談を行い、子どもの成長や課題を共有しながらその子にあったサポートプランの作成を行っている。また毎月ばんだ会議を行い、子の特性や園生活の様子を伝える中で支援方法も保護者と共有したり考え合ったりしている	B	A		
5 組織運営	(1)組織体制の充実	園は、園務分掌担当者を中心に各分掌が企画立案され、計画的に実施し、振り返りが行われている	分掌を中心に行事等の立案が行われ、各クラスや担任が協力し合い子どもたちにわかりやすく楽しんで活動できるように、工夫し実践している。また、振り返りをし、課題を上げていくことで、次につなげている	B	A		
6 研修	(1)研修体制の充実	園は「”なんでだろう?どうなるかな?もっとやってみよう”とつなげていくための環境づくり」をテーマに保育実践と園内研修が行われている	公開保育を通して園内研修を行い、テーマに沿った保育実践を話し合うことで、援助方法や保育者の関わり方、環境構成を見直し、課題を見つけ、次につながる保育を考え進めていった。研修日より全職員周知でき、共通意識が持てた	B	A		
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	園は、子どもが安全に過ごせるように日々の清掃、整理整頓がなされ、子どもが自ら物を取り出したり、片付けたりしやすい環境作りをしている	週1回、園庭会議を行い、各学年・クラスで遊びの時間や場所を確認し遊びの場と時間の保障が出来るようにした。又、子どもたちが主体的に遊び出せるよう、子どもの目線に合わせた玩具の置き場所に改善した。そのことで子どもが取り出しやすい環境にはなったが、片付けには課題が残る	B	B		
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	園は、活動や遊びの中で子どもの姿や育ちなどを知らせ、子どもの成長発達や子育ての情報を共有している	毎日、連絡ノートやボード、送迎時にその日の子どもの様子を伝えている。保育参加会や面談でも子どもの成長発達や子育ての情報を共有している。日々の活動の様子はクラスだよりやドキュメンテーションを作成し、写真を掲載することで子どもの表情や遊びの環境が保護者に伝わりやすくなっている	A	A		
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	園は、公開保育や公開授業を通して、情報交換や交流の場を作っている	公開保育では、他園の職員や小学校の先生方に参加していただき、意見をもらい学ぶきっかけを作ることが出来た。園の職員が他園の公開保育や、小学校の授業参観にも参加し気づきが自身の学びともなった。コロナ禍ではあるが、少しずつ状況を見ながら出来ることを行っている	B	B		
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園は、おしゃべりサロンを開催したり、勤労感謝訪問、ふれあいサロン(S型デイサービス)等、交流する機会を持ち、地域に親しまれる園づくりに努めている	コロナ禍で状況によって内容を変更したこともあったが、おしゃべりサロン、S型デイサービス、勤労感謝の訪問等、今年度は地域の方との交流が少しずつ戻ってきた実感があつた。コロナでやらないのではなく、出来ることを考え交流できたことはよかった	B	A		